

やる気発生装置

京都府立鴨沂高等学校

僕らにとっては身近すぎて普段あまり意識しないんですが、地元の方以外だと読むのが難しい校名かも知れませんが、鴨沂（おうき）高校は、「鴨のほとり」という名の通り、鴨川にかかる荒神橋のすぐ近くにあり、京都御所の東隣に位置します。左京区からは特に通いやすい場所で、多くの受験生が希望する学校です。見学に行ってみました。

高野周辺からは無理なく自転車で通える距離です。この日は空が雨雲に覆われていつ降り出すかという状況でしたが、まあ帰りに降られてずぶ濡れになってもいいや、と思える近さなので、迷わず自転車にまたがります。15分そこそこで到着しました。やはり便利な場所です。

校舎の全面改築・仮校地からの移転をへて、もとあった現在の場所に落ち着いたのが2018年ですから、7年目になります。長い歴史をもつ学校なんですが、校舎だけでなく学校そのものの性格や評価が大きく変わった、まさに激動の時期を乗り越えたといえるでしょう。全面改築しただけに最新鋭の設備が入ってはいるものの、この古い歴史と、京都御所がすぐ隣にある景観にも配慮して、昔の雰囲気が残るようにかなり苦心して設計されています。僕は改築前の鴨沂高校に1度だけ寄せてもらったことがあります。そのときの会議室と、いま校内コンビニの2階にある部屋とは内装が相当そっくりに作られていて、かつての様子を物語っています。廊下や壁面にも木の色合いを前面に出した、新しいながらもレトロ感を味わえる建物です。これから何十年か使い込まれていくことで、本当に歴史を織り込んだ校舎になっていくでしょう。

つい先週、中3生の志望動向が公表されたばかりですが、市内屈指の人気校である状況は今年も変わりません。各種データから見ると、「平均より少しだけ上」の層の受験生がものすごい人数で固まっていることが予想されます。人数が多い入試になるだけに、ボリュームゾーンより上か下に離れていれば「まさか」の結果は起こりにくいですが、激戦層では何が起こるか分かりません。鴨沂受験生は、1点でも取りにいく粘り強い対策と、万々に備えての併願校もしっかり考えておくことが欠かせません。

2013年以来ずっと鴨沂におられる英語のA先生にも久しぶりにご挨拶ができました。学校がまさに激変した10年余りを先生はどのように見てこられたのか、いつかじっくりお聞きしたいなと思います。



この日は雨が降ったり止んだりでしたが、思い切って自転車を出せる距離です。降られずに済みました。



伝統校でありながら現代風な一面もあります。校内には色々そろったコンビニが。

当面の教室予定

12/4(水)~12/6(金)

★早朝学習会あります★

7:00~8:10

16:00~22:00

12/7(土)

16:00~22:00

12/8(日)

10:00~12:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。

明日12/5(木)のテスト

学校/学年	教科
先端附 2	英コII/物理
工学院 1	数A/国語
紫野 2	文学/世史/論表
堀川 1	言文/英コI②
鴨沂 2	英コII/地理
鴨沂 3	政経/古典
北稜 1	英コI/生基/情報
北稜 3	世界史/論国